

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所 新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原6丁目7番1号
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は明主様が、昭和二十四年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

大三災と小三災

昔から言われている風水火の大三災、飢病戦の小三災とは如何なるものであるか、これについてその根本義を書いてみよう。

風水の原因は天地間の浄化作用であつて、何故浄化作用が発生するかというと、霊界における曇り即ち眼に見えざる汚濁が堆積するのである。それを風力によって吹き払い雨水によって洗滌される、それがための暴風雨である。然らば右のごとき曇りとはいかなるもので、いかにして堆積するかを解説してみるのが、それは人間の想念と言霊によるのである。即ち想念の悪に属するものとして不平、憎み、呪い、妬み、個人的怒り、偽り、復讐心、執着等が霊界を曇らせるのである。

次に言葉であるが、氣候が悪いとか悪天候とか米の不作とかいうような自然に対する不平や、人に対する非難攻撃、怒号、罵声、秘密、欺瞞、咎め、愚痴等、すべて悪から発するものは想念界の次位である言霊界を曇らすのである。それら種々の曇りの堆積の量がある程度を越ゆる時、一種の毒素が発生し人間生活に支障をきたす事になるのである。その自然浄化が発生する。それが天地の法則である。前述のごとく、霊界の曇りは人間の健康にも影響すると共に、草木特に農作物にも悪影響を与える結果、凶作の原因ともなり害虫の発生も旺盛になるのである。故に、今日日本各地における松や杉を枯死させる害虫の発生もこの理によるのであるから、人間が大いに向上しない限り、これを防ぐ事はむずかしいのである。言い換えれば日本人自身の過ちが、自分の国の松や杉を枯死させているという訳であるから、人間の想念と言霊は大いに慎まなければならないのである。

右の天災に引き換え、人災もまた怖るべきものがある事は何人も知る通りである。特に最も人間に被害を与えるものとしては彼の戦争であろう。私はこの戦争の原因について破天荒ともいふべき新説を書いてみるが、あまりに意外であるから読者は心を潜めて読まれたいのである。

戦争とは勿論集团的闘争であつて、今日までの人類は平和を好むよりも争いを好むかに見える傾向が多かつた。それがひとり国際間のみではなく、国内各方面を見渡す時、争いのない所はほとんどあるまい。一役所、一会社、一組合等、如何なる集団の内部にも必ず絶え間ない暗闘があり、互いに相手を非難し排斥し合う。また同業者間の争い、家庭内の争い即ち夫婦、兄弟、親子等の争い、友人間の争い等々、実によく争いを好む。電車汽車内、道路上においてすら、通行人同士の間ではしばしば見受けるところである。全く人間生活の中で争いの面のかに多いかは今更言う要はない。とすれば、一人人間のこのような争いを好む性格は何に原因するかを説いてみるのである。

如何なる人間といへども、先天性及び後天性に種々の毒素を保有している。それらの毒素は、人間が神経を使う個所へ集中するという私の唱うる説に従えば、神経を最も使う局所としては首から上である。頭脳を始め眼、鼻、口、耳等で、手足は休む事があつても右の機能は覚醒時中は一刻の暇さえなく活動している。従つて、毒素はこれらの附近に集溜するのは当然で、大多数者がいつも訴える首の回り、肩の凝り等もそのためである。この集溜毒素は時日を経るに従い一旦固結するが、固結がある程度に達すると反対作用即ち溶解排除作用が発生する。これを我等は浄化作用というのである。その際必ず発熱を伴うが、それは毒素排除を容易ならしむるための固結の溶解作用で、それによって固結は液体化するのである。この自然浄化が感冒であつて、喀痰、鼻汁、汗等の排泄物はその現れであるが、感冒のごく軽微な浄化作用は、大抵の人は平常といへども持続しているのである。これはほとんど気のつかない程度であるから本人は健康と思つてゐるが、この程度の人といへども決して真の健康的感覚はない。何となれば、精密に診査すると頭脳全体から肩部にかけて必ず微熱があり、軽度の頭重、頭痛、眼脂、鼻

汁、耳鳴り、齒槽膿漏、首肩の凝り等の自覚症状は必ずあるものであるから、これがために絶えず一種の不快感がある。この不快感こそ曲者である。即ちこの原因によつて怒りとなり、怒りの具体化が争いとなり、争いの発展が戦いとなるのであるから、人類から闘争心を除去する手段としては、この不快感を除去する以外他に方法は絶対ないのである。この理によつて誰しも感ずる事は、同一の事柄であつても爽快感の時は何とも思われないが、不快感の時は憤怒を禁じ得ないので、この経験のないものはほとんどあるまい。この例として次のような事がある。

よく泣癪の赤児がある。それは虫気のためとか虫が強いとかいふが、こういう赤児を診査すると必ず頭脳及び肩部に微熱がある。赤児で肩の凝つているものも沢山ある。これらは本教浄霊によれば、毒素は軽減し無熱となつて泣癪は全く治癒するのである。また児童で怒りやすく、親に反抗する性質のものも必ず右の赤児と同様の症状で、これまた浄霊によつて治癒し従順となり、争いを嫌うようになり、学校の成績も佳良となるのである。夫婦仲の悪い原因も同様で、浄霊によつて親和するようになるのである。

以上のごとく、争いの根源は頭脳と首肩付近の毒結の浄化熱とすれば、それを全治させる事こそ唯一の解決の手段である。とすれば本教浄霊こそ世界法といへども、唯一無二の根本的争闘除去の絶対法といつても過言ではあるまい。また今日戦争以外の苦悩に属するあらゆる問題といへども同様であつて、かの破壊的思想や階級的闘争等の思想は、不快感による不平不満が原因である。その他不快感から免れんがため、しらずしらず強烈な刺激を求めようとする。それが飲酒、淫蕩、怠惰、争闘等の犯罪発生の結果となるのは勿論である。

以上の理を悪用し、その時代の唯物的野心家が不平不満を助長させ、戦争を起し、悪質な社会革命を起すのである。従つてこの地球上に永遠の平和を樹立するとなれば、まず人間一人一人の不快感を祓除し、爽快感を充実させる事である。その結果として闘争を嫌忌し、平和愛好者となる事は一点の疑いがない事実である。

以上のごとき原理を把握させ、実際効果を挙ぐる力は本教以外にない事を知るべきである。

- 十日間の昏睡から救われた奇跡
- 動悸・息切れなくなり身体の浮腫みも取れる
- 浄霊に出合いガンが消えた！



浄霊体験記

動悸・息切れなくなり 身体の浮腫みも取れる

小倉支部
塩田まみ (37)



私は、母のお腹にいる時から浄霊をいただき、六歳で入会させていただきました。高熱が出た時は心配して父が病院に連れて行くこともありましたが、今まで薬を飲むことなく浄霊で元気になっております。

私は二十三歳の時、販売員の仕事をしており、ある日、仕事に足が浮腫み始めました。これまでに足が浮腫んだことがなく、ふくらはぎから下が見たことないくらいに浮腫み、身体も疲れやすく、手足が震えるようになってきました。立っていられない程つらい時もあり、勤務時間もシフト制で不規則でしたので、帰宅する時間が夜十時近くになることもありました。遅くなるとはご飯を食べるようになってからは遅く帰ってもご飯を食べるようになり、家にいる時はいつも何か食べているような感じでした。

ていましたので、仕事を休むことはありませんでした。この頃、一度、体重が五、六キロ減りましたが、次第に元の体重のプラス十キロ程になるくらいに体全体が浮腫んでいきま

した。その後、販売員を辞め、しばらくは自宅で休養しました。支部で浄霊をいただきながら、三カ月間職業訓練校に通うことが出来ました。

足が浮腫み始めてから約一年が経ち、その間、無月経にもなりました。身体は動悸や息切れ、発汗、震え等の症状がありましたので、座って出来る事務の仕事を探してありましたら、前から興味があった内装材メーカーの事務の仕事がすぐに決まりました。とても忙しい仕事でしたが、最初はアルバイトでしたので、勤務時間も短く、身体にあまり負担のない状態で働くことが出来ました。

二、三年後にインフルエンザにかかり、高熱が続きました。高熱が出てから少しずつ首周りの張りも柔らかくなりました。また、アルバイトから正社員になることが出来、その時に受けた健康診断も問題ありませんでした。

その後も風邪を引くことで熱が出て、鼻汁や痰等もその都度たくさん出ました。風邪を引く度に動悸や息切れ、発汗、震え等の症状も軽くなり、次第に症状もなくなり、三十歳頃は身体の浮腫みも取れていました。明主様の御守護の許、色々な仕事をさせていただきました。色々な仕事を素晴らしいお力を確信し、浄霊をいただけることがどれほど幸せなことなのか実感しております。そして、私の周りで起こる様々な事象や私自身

身に起こること全てが意味のあることだと思っております。感謝してもしきれないほどのおかげをいただき、今の私があります。

現在は、新健康協会の奉仕者として一人でも多くの方が明主様に御縁をいただけますよう、世界中の方々が幸せな日々を送れますようお念じております。身体の不調を感じておられる方、悩んでおられる方、お元気な方、どなたでも興味のある方はお近くの支部に足を運ばれてみて下さい。

(福岡県北九州市)

浄霊に出会い ガンが消えた！

札幌支部
菊田博志 (73)



私が浄霊を知る前のことですが、二〇一四年九月に、突然下腹部に激しい痛みと体の怠さを感じたので、泌尿器科を受診しました。エコーの結果は、腎臓結石と腹部大動脈瘤と言われまして、腎臓結石は、放っておいても治りますと言われました。腹部大動脈瘤は、造影剤を入れて、検査をしましたところ、三・八センチ

と言われ、まだ小さいので手術できる大きさになるまで待つということでした。また、尿の出が悪かったため検査をしますと、膀胱ガンとの診断で、手術をしました。ガンが小さかったので、目立つところだけ取り除き、小さく奥にあるものは、薬で対応することに。治療しましたが、自力で排尿できないので、四十七センチ位の管を通して尿が出るのを待つ状態で、これも痛みを伴うものでした。生検しますと、悪性ということで、十二月に再度手術すると言われ、落胆してしまいました。

一度退院して家に戻りますと、机の上に「健康新聞」が置いてありました。初めて目にしましたが、妻が私に読ませたくて置いてあるのだと思います、読んでみますと、色々な病気が浄霊を受けて良くなっていく体験が載っていました。私は早速札幌支部へ連絡を入れて、その日のうちに支部へ行きました。

医師より「この先も何回か手術をする」と言われており、ガンのことを考えると気が重く、どこを歩いて札幌支部へ着いたのか、覚えておりませんでした。しかし浄霊をいただいた後の帰り道は不思議にも心が軽くなり、気が重かった状態が消えていました。

支部に行った時に、薬毒の話を知りましたので、十二月に再入院する日まで薬を飲まずに、一カ月半位、毎日支部で浄霊をいただきました。すると体に変化があり、尿道に管を通さなくても、自然と尿が出るようになったのです。本当に感激でした。それから、膀胱ガンの検査を受けますと、医者から「ガンが消えています！」と言われて、同室の患者さん達も驚いていました。

その結果、手術後の「BCG治療」をせずに済みまして、大変苦しい治

療と聞いていましたので、とても有難く感謝しております。

この奇跡を受け、私は二〇一五年の一月、協会に入会させていただきました。そして六月に大動脈瘤の再検査をしたところ、医者が「三・八センチだったのに、〇・二センチ小さくなった」と言っており、「変だなあ」と首を傾げており、「間違っても小さくなることはない」と言っておりました。また、この時、検査技師の方から、造影剤は「毒」だと教えられたので、その後の検査は受けておりません。

その後、二〇一八年十二月に、ギラン・バレー症候群という病気になりました。喉が塞がり、口は腫れ、腕は上から、足腰に力が入らず歩けません。約一カ月入院して、点滴を受けました。完全に治っていませんでしたが、浄霊をいただいているおかげで、同じ病気で先に入院している人達よりも、一カ月位早い退院となり、医者も驚いておりました。退院してから、毎日支部で浄霊をいただきますと、一カ月程で、目、口、腕、足腰が随分と楽になりました。本当に感謝しております。

これは妻のことですが、妻は二〇一八年の四月、自転車で出かけていた時、後ろから乗用車に追突されました。自転車の後ろがグチャグチャになり、歩道に飛ばされるといふ状態で、本人も一瞬「だめだ」と思ったようですが、病院での検査では、どこも異常なしとの結果でした。これも明主様に守ってもらえたのだと、心より感謝申し上げます。

浄霊をいただくようになって、元気に動けますので、気持ちもクヨクヨしなくなりまして。本当に有難い毎日です。

明主様、心より感謝申し上げます。
(北海道札幌市)

新健康協会は

病気・貧乏・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と霊性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施。また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。

本教の教祖『明主様』は昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病気や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。

浄 霊

浄霊は大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

十二代今泉今右衛門 《染付兎文皿》

「月には兎が棲んでいる」という言い伝えは、絵画や工芸品の文様、建築意匠などさまざまな形で受け継がれてきました。この染付の皿もそれに連なるものと言えます。良く見ると、全体が丸くうずくまった兎の左側から白い三日月が浮かぶ形になっている、気の利いたデザインです。

月に兎が棲むとした伝承は世界各地にあるようですが、日本が最も文化的な影響を受けている中国では、神話や神仙思想を反映して「月の兎」の染織文様が古くから用いられており、月に棲む兎のこと、あるいは月そのものを指す異名として「玉兎」という言葉も伝わっています。丸くなった兎を月に見立てた絵画があったり、伏せた兎の形をした月見菓子の名前に採られたりしているのはこの言葉からの連想のようです。

さらに日本では「兎と波」の組み合わせられた意匠が数多くみられます。原典はいくつかありますが、注目したのは謡曲「竹生島」をもとにしたもので、琵琶湖を渡る舟で謡われる「緑樹影沈んで、魚木に上る気配あり、月海上に浮かんで、兎も波を走るか、面白き浦の景色や」という一節です。

「木々の影が湖面に映って、水中の魚が木々に登るかのよう。月が湖上に浮かぶなら、月の兎も波の上を走るでしょうか」と、見えている光景に幻想が重ねられていく趣深いうたは、月と兎、兎と波の結びつきを人々に強く印象づけたのでしよう。実はこの皿も、裏側には波が描かれているのです。

本作は十二代今泉今右衛門によるものですが、江戸時代の鍋島焼にも同型のものが残っています。鍋島藩の藩窯で上絵付けを担っていた今泉今右衛門家は、明治になって十代が自家工房を開き、十一代が復興と発展の道筋をつけて、色鍋島の伝統技術をつないできました。十二代は両者を支え、襲名後はその技術が無形文化財指定を受け、江戸の終わりとともに途切れそうになつた色鍋島を今につなぐ

土台を仕上げた人物と言えます。古陶磁の目利きでもあったという十二代は研究熱心な職人気質とも伝えられており、きつと本作の復刻にも忠実に向き合い、さまざまなものを学んだに違いありません。私たちは幾重にもつなぎ直された伝統の結果として、この皿を見ることができのです。

解説 松田愛子



晴明会館

「背景に九州」前期展
期間：6月1日（火）～12月11日（土）

※晴明会館お問い合わせ ☎ (092) 661-1535

健康新聞についてのお問い合わせは
(092) 661-1531まで